



図1 6月30日現在、火山現象に関する特別警報、警報及び火山現象に関する海上警報発表中の火山

## 各火山の6月の活動解説

### 【北海道地方】

#### めあかんだけ 雌阿寒岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

4月以降、ポンマチネシリ火口付近の浅い所を震源とする、微小な火山性地震がやや多い状態が継続していたが、6月以降は徐々に減少している。

全磁力連続観測によると、ポンマチネシリ96-1火口近傍の地下では、2015年3月中旬以降熱活動が活発化している可能性がある。今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### とちあだけ 十勝岳 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

15日から18日にかけて実施した現地調査では、赤外熱映像装置により、62-2火口内の南側と振子沢噴気孔群で地熱域の広がり観測された。62-2火口周辺の一部では熱活動が次第に高まっている可能性が考えられる。

ここ数年、山体浅部の膨張、大正火口の噴煙量増加、地震増加、火山性微動の発生及び発光現象などが観測されており、長期的にみると十勝岳の火山活動は高まる傾向にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### たるまえさん 樽前山 [噴火予報 (噴火警戒レベル1、活火山であることに留意)]

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められない。

山頂溶岩ドーム周辺では1999年以降、高温の状態が続いているので、突発的な火山ガス等の噴出に注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

アトサヌプリ [噴火予報 (活火山であることに留意)]

たいせつざん 大雪山 [噴火予報 (活火山であることに留意)]

くつたら 倶多楽 [噴火予報 (活火山であることに留意)]

うすざん  
有珠山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

ほっかいどうこまがたけ  
北海道駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

えさん  
恵山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

## 【東北地方】

あきたこまがたけ  
**秋田駒ヶ岳〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕**

めだけ  
女岳では、2009 年から地熱域の拡大が認められている。地震活動は低調で、地殻変動及び噴気活動にも大きな変化はみられないが、地熱活動が継続しているので今後の火山活動の推移に注意が必要である。

さおうざん  
**蔵王山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕**  
←16 日に火口周辺警報（火口周辺危険）から引下げ

2015 年 4 月に御釜周辺が震源と推定される火山性地震が増加し、火山活動が活発になったが、5 月下旬以降は地震の少ない状態で経過している。火山性微動は 5 月 17 日を最後に観測されていない。また、これまでに行った現地調査や上空からの観測等では、御釜周辺と丸山沢噴気地熱地帯をはじめ想定火口域（馬の背カルデラ）内に特段の変化は確認されていない。

これらのことから、噴火の発生する可能性が低くなったと判断し、16 日 09 時 00 分に噴火予報を発表し、火口周辺警報（火口周辺危険）から噴火予報（活火山であることに留意）に引下げた。

17 日からは地震回数がやや増加し、その後、増減を繰り返しながら 27 日に 21 回、29 日に 24 回と、やや多い状態となっている。

2013 年以降、火山性地震の増加や火山性微動の発生が観測されており、2014 年 10 月以降はわずかな膨張を示す地殻変動が観測されるなど、長期的にみると火山活動はやや高まった状態にあるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

あづまやま  
**吾妻山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕**

大穴火口付近直下を震源とする火山性地震は、増減を繰り返しながらやや多い状態で経過し、今期間の地震回数は 255 回（前月 247 回）となった。火山性微動は観測されなかった。

大穴火口の噴気活動はやや活発な状態が続いている。

浄土平の傾斜計<sup>1)</sup>では、2014 年 4 月以降、緩やかな西側（火口方向側）上がりの変動が継続している。

GNSS<sup>2)</sup>連続観測では、2014 年 9 月頃から一切経山南山腹観測点が関係する基線で緩やかな変化がみられており、一切経山付近の膨張を示すと考えられる。

大穴火口から概ね 500m の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。また、大穴火口の風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>3)</sup>、火山ガスに注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

いわきさん  
岩木山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

ほっこうざん  
八甲田山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

あきたやげやま  
秋田焼山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

いわてさん  
岩手山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

ちようかいさん  
鳥海山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

くりこまやま  
栗駒山〔噴火予報（活火山であることに留意）〕

あだたらやま  
安達太良山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

ぼんだいさん  
磐梯山〔噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）〕

## 【関東・中部地方及び伊豆・小笠原諸島】

くまつしらねざん  
**草津白根山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）〕**

2014 年 3 月上旬から湯釜付近及びその南側を震源とする火山性地震が増加している。2014 年 8 月 20 日以降はやや少ない状態で経過しているが、2015 年 1 月以降一時的な地震の増加もみられている。28 日 19 時 13 分頃に振幅の小さな火山性微動（継続時間：2 分 15 秒）が発生した。火山性微動の発生は 2013 年 1 月 1 日（継続時間：2 分 12 秒）以来である。火山性微動の発生前後で地震活動やその他のデータに特段の変化はなかった。

地殻変動観測によると湯釜付近の膨張を示す変動が認められていたが、2015 年 4 月頃より鈍化している。

湯釜火口内北東部や北壁及び水釜火口の北から北東側に当たる斜面で熱活動の活発な状態が継続している。東京工業大学によると、北側噴気地帯のガス成分及び湯釜湖水の化学成分にも活動活発化を示す変化がみられている。また、全磁力観測による 2014 年 5 月以降の湯釜近傍地下の温度上昇を示すと考えられる変化は、7

月以降停滞している。

湯釜火口から概ね 1 km の範囲では、小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。噴火時には、風下側で火山灰や小さな噴石<sup>3)</sup>が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

また、ところどころで火山ガスの噴出が見られ、周辺のくぼ地や谷地形などでは滞留した火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

**あさまやま**  
**浅間山[噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）]**  
**←11日に噴火警戒レベル 1（活火山であることに留意）から引上げ**

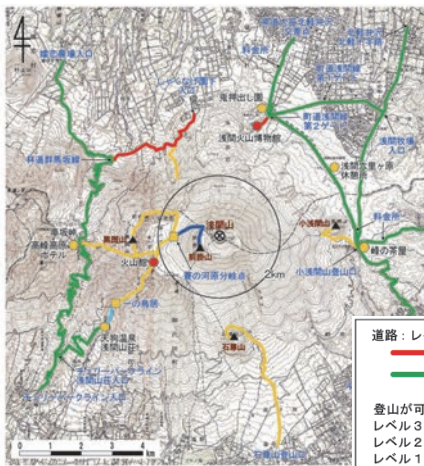
4 月下旬頃から山頂直下のごく浅い所を震源とする体を感じない火山性地震が多い状態が続いている。また、二酸化硫黄の放出量が、1 日の観測で 1 日あたり 200 トン、8 日の観測で 500 トンであったが、11 日の観測で 1,700 トンと急増した。

これらのことから、浅間山では火山活動が高まっていると考えられ、火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があることから、11 日 15 時 30 分に火口周辺警報を発表し噴火警戒レベルを 1（活火山であることに留意）から 2（火口周辺規制）に引き上げた。

その後、16 日及び 19 日に山頂火口でごく小規模な噴火が発生した。

19 日の噴火以降、噴火は発生していないが、火山ガスの放出量が多い状態が続いているなど、火山活動は引き続き高まった状態で経過している。

今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から概ね 2 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>3)</sup>に注意が必要である。



浅間山 警戒が必要な範囲（黒円内：火口から概ね 2 km の範囲）

**みだかはら**  
**弥陀ヶ原[噴火予報（活火山であることに留意）]**

弥陀ヶ原近傍の地震は少ない状態で経過した。

以前から熱活動が活発な立山地獄谷では、2012 年 6 月以降の観測で噴気の拡大・活発化や温度の上昇傾向が確認されていることから、今後の火山活動の推移に注意が必要である。また、この付近では火山ガスが高濃度になることがあるので、注意が必要である。

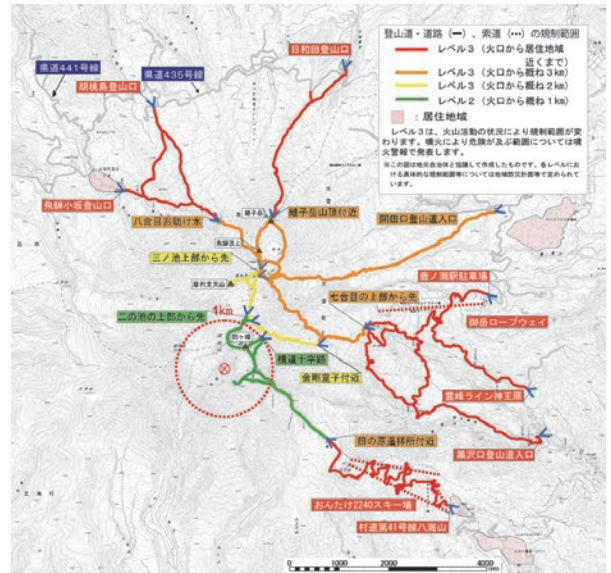
**おんたけさん**  
**御嶽山[火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]←26日に噴火警戒レベル 3（入山規制）から引下げ**

御嶽山の火山活動は低下した状態が続き、昨年（2014 年）10 月以降噴火が発生していないことから、昨年 9 月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられる。

これらのことから、26 日 17 時 00 分に噴火警戒レベルを 3（入山規制）から 2（火口周辺規制）に引下げ、警戒の必要な範囲を火口から概ね 1 km の範囲に縮小した。

しかしながら、弱いながらも噴煙活動や地震活動が続いていることから、昨年 9 月 27 日より規模の小さな噴火が今後も突発的に発生する可能性は否定できない。

火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石<sup>3)</sup>に注意が必要である。



御嶽山 警戒が必要な範囲（赤円内：火口から概ね 1 km の範囲）

**ふじさん**  
**富士山[噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]**

2011 年 3 月 15 日に静岡県東部（富士山の南部付近）で発生したマグニチュード 6.4 の地震以降、地震活動が活発な状況となっていたが、その後、地震活動は低下してきている。その他

の観測データでも浅部の異常を示すものはない。火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。

**箱根山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）] ←30 日に噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）から引上げ**

29 日 07 時 32 分から約 5 分間の火山性微動が発生し、同日 12 時 45 分頃には大涌谷の北から北東にかけて最大約 1.2 km の範囲で降下物を確認した。その後の調査で大涌谷において新たな噴気孔が確認された。30 日に実施した現地調査では、29 日に確認した噴気孔周辺で火山灰等の堆積による盛り上がり確認され、ロープウェイ大涌谷駅付近で降灰を確認した。これらのことから、大涌谷で 29 日夜から 30 日朝にかけてごく小規模な噴火が発生したと判断し、30 日 12 時 30 分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 3（入山規制）に引き上げた。

今後も小規模な噴火が発生する可能性があるため、大涌谷周辺の概ね 1 km の範囲では小規模な噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>に警戒が必要である。また、風下側では火山灰や小さな噴石<sup>3)</sup>が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。



箱根山 警戒が必要な範囲（赤円内：大涌谷周辺の概ね 1 km の範囲）

**伊豆大島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]**

火山性地震は少ない状態で経過している。

GNSS<sup>2)</sup>連続観測では、地下深部へのマグマの供給によると考えられる島全体の膨張傾向が続いている。2011 年頃から鈍化していたが、2013 年 8 月頃から再び膨張傾向がみられる。その他の観測データには特段の変化はなく、噴火の兆候は認められないが、山体の膨張が続いていることから、今後の火山活動に注意が必要である。

**三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）] ←5 日に噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）から引下げ**

噴火は 2013 年 1 月 22 日以降発生していない。火山ガス放出量は、長期的に減少傾向にあり、2013 年 9 月以降は 1 日あたり 500 トン以下で経過している。また、山頂浅部を震源とする地震は概ね少ない状態で経過していることから、三宅島では噴火が発生する可能性は低くなったものと考えられる。

これらのことから、5 日 14 時 00 分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げた。

しかし、火口内での噴出現象が突発的に発生する可能性があるため、山頂火口内及び主火孔から 500m 以内では火山灰噴出に警戒が必要である。

また、火山ガスの放出は続いているため、引き続き火山ガス予報で火山ガスの濃度が高くなる可能性があるとして予想される地域では警戒が必要である。

**西之島 [火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報]**

海上保安庁等の観測によると、噴火による噴石<sup>3)</sup>等の堆積や溶岩の流出が継続し、新たな陸地の拡大が続いている。

7 日、12 日、14 日に第三管区海上保安本部が、18 日に海上保安庁が上空からの観測を実施し、第 7 火口での活発な噴火活動の継続を確認した。

第 7 火口の火砕丘北東斜面に形成されている溶岩流出口からは溶岩が流出し、火砕丘東側を回り込んで扇型に拡がりながら南東方向へ流下していた。また、溶岩流出口からは、青白色の火山ガスを放出していた。

ごく薄い黄緑色の変色域が海岸線に沿って幅約 100~200m で分布していたのが確認された。

新たな陸地の大きさは、東西方向に約 1,980 m、南北方向は約 2,090m、面積は約 2.70km<sup>2</sup>（前回 5 月 20 日：約 2.57km<sup>2</sup>）であった。

西之島及び新たな陸地には、津波を発生させる恐れのある断層やクラックは認められなかった。

西之島では、今後も新たに形成された陸地にある火口で噴火活動が継続すると考えられる。また、西之島周辺の海底で噴火が発生する可能性も引き続き考えられ、噴火による影響が海上まで及んだ場合、弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup>や水面を高速で広がるベースサージ<sup>4)</sup>等の影響が概ね 2 km の範囲に及ぶおそれがあるため、西之島の中心から概ね 4 km 以内の範囲では噴火に警戒が必要である。

### 硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報]

火山性地震はやや少ない状態で経過している。GNSS<sup>2)</sup> 連続観測によると、地殻変動は 2014 年 12 月上旬頃から隆起の傾向がみられ、2015 年 3 月頃から隆起速度が上がっている。その他の観測データに特段の異常は認められない。

島北西部の井戸ヶ浜では、20 日 18 時 18 分から 22 分にかけて最大 200m の水蒸気の噴出を確認した。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生している。火山活動はやや活発な状態で推移しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生している地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では噴火に警戒が必要である。

### 福岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁による観測によると、福岡ノ場では長期にわたり火山活動によるとみられる変色水や浮遊物が確認されており、2010 年 2 月 3 日には小規模な海底噴火が発生している。

今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に警戒が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

那須岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

日光白根山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

新瀧焼山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

焼岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

白山 [噴火予報（活火山であることに留意）]

乗鞍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]

伊豆東部火山群 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

新島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

神津島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

八丈島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

青ヶ島 [噴火予報（活火山であることに留意）]

### 【九州地方及び南西諸島】

#### 九重山 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、GNSS<sup>2)</sup> 連続観測によると、わずかに伸びの傾向が認められるので、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### 阿蘇山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

中岳第一火口では、今期間、噴火は観測されなかった。

火山性微動の振幅は、消長を繰り返しながら、概ね大きな状態で継続した。

期間中に実施した現地調査では、10 日に 141 火孔<sup>5)</sup> 内の一部に湯だまりを確認した。赤外熱映像装置による観測では、湯だまりの最高温度は約 80℃であった。湯だまりを確認したのは、2014 年 7 月 8 日以来である。その後も、引き続き湯だまりを確認したが、29 日には湯だまりが消失しているのを確認した。

中岳第一火口では火山活動が停滞する傾向がみられるものの、活発な火山活動が続いていることから、中岳第一火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要である。火口周辺では強風時に小さな噴石が 1 km を超えて降るため、風下側では火山灰だけでなく小さな噴石にも注意が必要である。

#### 雲仙岳 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められないが、長期的には 2010 年頃から火山性地震の活動がやや活発となっており、今後の火山活動の推移に注意が必要である。

#### 霧島山（新燃岳） [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は少ない状態で経過した。

GNSS<sup>2)</sup> 連続観測によると、新燃岳の北西数 km の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は、2013 年 12 月頃から伸びの傾向が見られていたが、2015 年 1 月頃から停滞している。

新燃岳では火口周辺に影響のある小規模な噴火が発生する可能性があるため、新燃岳火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup> に警戒が必要である。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>3)</sup>（火山れき<sup>6)</sup>）が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には、泥流や土石流に注意が必要である。

#### さくらじま **桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 3、入山規制）]**

昭和火口では、爆発的噴火が 64 回発生するなど、活発な噴火活動が継続した。

弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup> が 4 合目（昭和火口より 800～1,300m）まで達する爆発的噴火が 5 回発生した。また、4 日 11 時 25 分、14 時 22 分及び 21 時 04 分の爆発的噴火に伴い、ごく小規模の火砕流が発生し、最大で火口から東側へおよそ 400m 流下した。噴煙の高さの最高は、1 日 12 時 33 分の爆発的噴火による火口縁上 3,300m であった。

南岳山頂火口では、22 日に灰白色の噴煙が火口縁上 200m まで上がるごく小規模な噴火が発生した。同火口でごく小規模な噴火が観測されたのは 5 月 12 日以来である。

桜島島内の伸縮計<sup>7)</sup> では、2015 年 1 月 1 日頃から山体の膨張を示す変化が継続している。桜島島内の傾斜計<sup>4)</sup> では、2015 年 1 月以降、山体がわずかに隆起する傾向が続いていたが、3 月以降停滞する傾向が見られる。GNSS<sup>2)</sup> 連続観測では、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の膨張を示す伸びの傾向は、2013 年 6 月頃から停滞していたが、2015 年 1 月から伸びの傾向がみられる。

昭和火口及び南岳山頂火口から概ね 2 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup> 及び火砕流に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>3)</sup>（火山れき<sup>6)</sup>）が遠方まで風に流されて降るため注意が必要である。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意が必要である。また、降雨時には土石流に注意が必要である。

#### さつまいおうじま **薩摩硫黄島 [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]**

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められないが、硫黄岳火口では噴煙活動が続いており、火口内では火山灰等の噴出する可能性がある。また、火口周辺では火山ガスに注意が必要である。

#### くちのえらぶじま **口永良部島 [噴火警報（噴火警戒レベル 5、避難）及び火山現象に関する海上警報]**

口永良部島の火山活動は活発な状態が継続している。

18 日 12 時 17 分頃に噴火が発生し、口永良部島の東海上で、噴火に伴う小さな噴石<sup>3)</sup> 及び降灰が確認された。現地調査及び聞き取り調査では、屋久島町、西之表市及び中種子町で降灰を確認した。また、18 日 16 時 31 分と 19 日 09 時 43 分にもごく小規模な噴火が発生した。

20 日に九州地方整備局の協力により、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が実施した上空からの観測によると、新岳火口周辺や山体斜面で 18 日の噴火による新たな火砕流の痕跡は認められなかった。噴煙のため火口内の状況は未確認であるが、新岳火口の形状に特段の変化は認められなかった。

6、20、21、29 日に、東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所及び気象庁が実施した観測では、二酸化硫黄の放出量は 1 日あたり 800～1,700 トン（5 月 29 日の噴火直後 3,800 トン）と依然として多い状態であった。

今後も、5 月 29 日と同程度の噴火が発生する可能性がある。

大きな噴石<sup>3)</sup> の飛散及び火砕流の流下が切迫している居住地域では、厳重な警戒（避難等の対応）が必要である。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>3)</sup> が風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。降雨時には土石流の可能性があるので注意が必要である。

新岳火口から半径 2 海里以内の周辺海域では、噴火による影響が及ぶ恐れがあるので、噴火に警戒が必要である。

#### すわのせじま **諏訪之瀬島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル 2、火口周辺規制）]**

おたけ  
御岳火口では、噴火は観測されなかったが、長期にわたり噴火を繰り返している。

諏訪之瀬島では、今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口から概ね 1 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石<sup>3)</sup> に警戒が必要である。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石<sup>3)</sup> が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意が必要である。

なお、以下に挙げる火山では、火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

つるみだけ がらんだけ  
鶴見岳・伽藍岳 [噴火予報（活火山であることに留意）]  
きりしまやま おはち  
霧島山（御鉢） [噴火予報（噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意）]

- 1) 火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがある。
- 2) GNSS (Global Navigation Satellite Systems) とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称である。
- 3) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「風の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とは、それより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことである。
- 4) 火山ガスと火山灰等の混合物が、水面や地表面を高速で横方向に広がり、地表の物を巻き込む現象。人体や建物、船舶等に大きな被害を与える恐れがあり、とても危険である。
- 5) 阿蘇山では、火口内の火山灰や噴石を噴出する孔を火孔と呼んでいる。火山活動に伴い、火孔の位置が変わったり、同時に複数個の火孔が開いたりしたことがあり、明瞭に区別するために、141 火孔のように西暦の下 2 桁と通し番号で命名している。
- 6) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。
- 7) 火山活動による地殻の伸び縮みを観測する機器。マグマ溜まりや火道内の圧力増加によって生じる火口周辺の変化が観測されることがある。

**表 2 平成 27 年 6 月の火山現象に関する特別警報、警報、予報及び情報等の発表履歴**

火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要					
		種類、号数等	発表日時						
口永良部島	噴火警報 (噴火警戒レベル 5、避難)	解説情報 第 51 号～80 号 第 82 号～86 号 第 88 号～113 号	1 日～4 日 6 日～30 日 10 時 00 分 16 時 00 分 5 日 10 時 10 分 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。					
		解説情報第 81 号	15 日 18 時 30 分	第 132 回火山噴火予知連絡会見解					
		解説情報第 87 号	18 日 12 時 50 分	12 時 17 分に発生した噴火の状況。					
		火山活動解説資料	1 日 20 時 20 分 7 日 14 時 00 分 21 日 14 時 00 分 18 日 17 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。上空からの観測の状況。 12 時 17 分に発生した噴火の状況。上空からの観測の状況。					
御嶽山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	解説情報 第 62 号、63 号、 65 号、66 号	5 日、12 日、19 日、 26 日 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。					
		解説情報第 64 号	15 日 18 時 30 分	第 132 回火山噴火予知連絡会見解					
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	火口周辺警報	26 日 17 時 00 分	火山活動は低下した状態が続き、昨年 9 月 27 日と同程度の噴火の可能性は低下していると考えられることから、噴火警戒レベル 2 (火口周辺規制) に引下げ。					
		火山活動解説資料							
解説情報第 67 号	3 日 16 時 00 分	噴煙・地震回数等火山活動の状況。							
桜島	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	降灰予報 (速報)	1 日 10 時 17 分 1 日 12 時 40 分 1 日 16 時 33 分 4 日 02 時 18 分 4 日 07 時 50 分 4 日 10 時 56 分 4 日 14 時 31 分 4 日 16 時 18 分 4 日 19 時 44 分	噴火発生から 1 時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想。					
			降灰予報 (詳細)		1 日 10 時 40 分 1 日 12 時 55 分 1 日 16 時 50 分 4 日 02 時 33 分 4 日 08 時 10 分 4 日 11 時 10 分 4 日 14 時 45 分 4 日 16 時 31 分 4 日 20 時 00 分	噴火発生から 6 時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想。			
					解説情報第 46 号 ～54 号		1 日、5 日、8 日、 12 日、15 日、19 日、 22 日、26 日、29 日 16 時 00 分	爆発的噴火による大きな噴石の飛散状況。 傾斜計・伸縮計・地震回数等火山活動の状況。	
					火口周辺警報 (火口周辺危険)		解説情報第 28 号 ～30 号	1 日、8 日、15 日 16 時 00 分	地震回数、微動の発生状況等火山活動の状況。
							噴火予報 (活火山であることに留意)	噴火予報	16 日 09 時 00 分
					火山活動解説資料			16 日 10 時 00 分 30 日 10 時 30 分	17 日から増加した火山性地震の状況。
吾妻山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)				解説情報第 32 号 ～36 号		1 日、8 日、15 日、 22 日、29 日 16 時 00 分	噴煙・傾斜計・地震回数等火山活動の状況。	
草津白根山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)				解説情報第 25 号 ～28 号		5 日、12 日、19 日、 26 日 16 時 00 分	傾斜計・地震回数等火山活動の状況。	



火山名	特別警報、警報及び予報の状況	発表した火山現象に関する特別警報・警報・予報・情報		概要
		種類、号数等	発表日時	
箱根山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報第 32 号 ～59 号	1 日～18 日 20 日～28 日 16 時 00 分 19 日 16 時 10 分	火温泉供給施設の蒸気・傾斜計・ひずみ計・地震回数等火山活動の状況。現地調査の状況。
		火山活動解説資料	5 日 10 時 00 分	
		解説情報第 60 号 ～61 号	29 日 16 時 25 分 29 日 21 時 20 分	
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 3、入山規制)	火口周辺警報	30 日 12 時 30 分	大涌谷で 29 日夜から 30 日朝にかけてごく小規模な噴火が発生したと判断し、噴火警戒レベルを 3（入山規制）に引き上げ。
		火山活動解説資料	30 日 13 時 30 分	
		解説情報第 62 号	30 日 16 時 25 分	
火山活動解説資料		30 日 21 時 30 分	上空からの観測の状況。	
阿蘇山	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	解説情報第 43 号 ～51 号	5 日、8 日、12 日、 15 日、19 日、22 日、 26 日、29 日 16 時 00 分	噴気・火山性微動等の火山活動の状況。現地調査の状況。
浅間山	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)	解説情報第 5 号	5 日 16 時 00 分	火山性地震・火山性微動の状況等火山活動の状況。二酸化硫黄の放出量の状況。
	火口周辺警報 (噴火警戒レベル 2、火口周辺規制)	火口周辺警報	11 日 15 時 30 分	火山性地震の多い状態が継続し、11 日に二酸化硫黄の放出量が急増したことから、噴火警戒レベル 2（火口周辺規制）に引上げ。
		解説情報第 6 号	11 日 16 時 05 分	
		火山活動解説資料	11 日 16 時 50 分	
		解説情報第 7 号～ 10 号、12 号～15 号、17 号～26 号	12 日～15 日、16 日、 18 日、19 日、21 日 ～30 日 16 時 00 分 17 日 16 時 10 分	噴煙・火映・火山性地震・火山性微動の状況等火山活動の状況。二酸化硫黄の放出量の状況。上空からの観測状況。
		解説情報第 11 号	16 日 10 時 30 分	16 日に発生したごく小規模な噴火の状況。上空からの観測の状況。
		火山活動解説資料	16 日 17 時 40 分	
		火山活動解説資料	18 日 17 時 00 分	16 日夜から 17 日未明にかけて観測した微弱な火映の状況。火山灰の分析結果。
解説情報第 16 号	20 日 16 時 00 分	19 日に発生したごく小規模な噴火の状況。		
火山活動解説資料	24 日 18 時 30 分	噴煙・火映・火山性地震・火山性微動の状況等火山活動の状況。二酸化硫黄の放出量の状況。上空からの観測状況。		
三宅島	噴火予報 (噴火警戒レベル 1、活火山であることに留意)	噴火予報 火山活動解説資料	5 日 14 時 00 分	噴火が発生する可能性は低くなったことから噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引下げ。

注) 表中、解説情報とは「火山の状況に関する解説情報」のことである。

この他、三宅島においては毎日 07 時と 17 時に火山ガス予報を発表している。

阿蘇山、桜島、諏訪之瀬島、口永良部島においては、毎日 02 時から 3 時間毎に 8 回降灰予報（定時）を発表している。